資料2－1
科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会
第9期地域科学技術イノベーション推進委員会（第11回）
H31.2.13

地域科学技術イノベーションの新たな推進方策について
～地方創生に不可欠な「起爆剤」としての科学技術イノベーション～　最終報告書（案）　【概要】

1．地域の科学技術イノベーション活動の基本的方向性　… 定義・範囲、意義、地方創生の流れにおける科学技術イノベーション（ＳＴＩ）の位置付け …

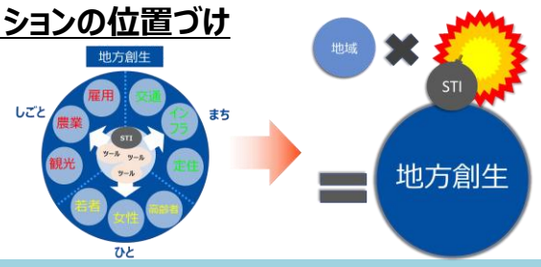
● **科学技術イノベーション振興政策における地域の捉え方（定義・範囲）**

■ **科学技術イノベーション活動の特徴**
- ➢ 地理的な境界や分野、組織を越える取組が多い
- ➢ 試行錯誤を繰り返しながら、柔軟に適応させつつ最適解を見つけていくことが求められる
- ➢ 規定された境界や組織に縛られず、意欲ある行為者が順応性をもって活動することが肝要

■ **イノベーション活動の特徴を踏まえた地域の捉え方**
- ➢ 従来型の行政区画等による「境界」という区域（エリア）、均一性や類似性の高い組織や体制に捉われず、協働する自立した行為者レベル、つまり**「組織を超えた人的ネットワークが形成された場」を引っ張る中心的な「主体**（地方公共団体、大学、産業界等）**」を切り口**として、「地域」を捉えていくことが重要

● **地域が科学技術イノベーション活動を行う意義・目的**
- ➢ 持続可能な地域経済の発展や、誰一人取り残さない地域社会の実現に必要なツール
- ➢ 一人ひとり全ての人が、他者との関わりの中で「豊かさ」と「幸せ」を感じ、持続的発展と共存とを達成
- ➢ 多様な地域STIにより、国全体としての多様性の確保を通じ、国家基盤としてのレジリエンスが向上

● **地方創生の流れにおける科学技術イノベーションの位置づけ**
- ➢ **STIを不可欠な「起爆剤」として利活用**し、イノベーションの連鎖を通じて、**地域の強みを最大化**させ、**地域の抱える諸課題を克服**することで、地方創生を実現



2．これまでの国内外の地域の科学技術イノベーション事例からの教訓　… “モノ”、“カネ”、“ヒト”とイノベーション・エコシステムの形成 …

多様で唯一無二の	循環し続ける	創造力と主体性のある
地域資源	**資金**	**人材**
競争力の源泉である**地域資源**は、**コア技術**、**施設・設備**、**地域固有の課題や強み**など多様。これらを**戦略的に最大限活用**することが重要	公的資金だけではなく**資本性の資金導入**や、**リスクマネー供給**、さらには**柔軟かつ自立的に富の循環ができる仕組み**が重要	ニーズ起点の発想で、リーダーシップをもち、**事業全体をプロデュースする人材**や人口減に伴う**技術系人材の確保**が重要

地域の“モノ”、“カネ”、“ヒト”を結びつけ循環させるエコシステムの形成
- ➢ イノベーションが絶え間なく創出される状態（エコシステム）を形成するためには、特色、専門性、能力などに着目して**分業し、相互補完による連携の関係を築くことが重要**

3．科学技術イノベーションによる地方創生の実現に向けて

● **直面する社会変化の方向性と求められる価値、その持続的創造に不可欠なエコシステム形成**

■ **Society 5.0が目指す社会**
：持続可能でインクルーシブな経済社会で、経済発展と社会課題の解決が両立する人間中心の社会
➡ **経済的価値**のみならず、安心や幸せ、多様なニーズが満たされることによる豊かさなど**社会的価値**も追求

■ **地方創生が目指す社会**
：人口減や本格的な少子高齢社会に向かい、所得や消費が右肩上がりを続けるのが難しい成熟した社会
➡ 地域の多様性を強みとしたイノベーションにより生産性を向上させ、**経済的価値と社会的価値**とを追求

経済的価値・社会的価値を創造し続けるために・・・

絶え間なくイノベーションが創出される**イノベーション・エコシステム**を地域に根付かせることが重要
➡ 地域の主体（地方公共団体、大学、産業界等）が、イノベーションの３つの源泉（地域資源、資金、人材）の無秩序な流れの中に**主体性を持って集まる**に留まらず、**３つの源泉との介在を通じながら相互作用**を起こし、その**作用が成熟**するにつれて、各**主体自身、さらには３つの源泉自体も深化・向上**し続ける仕組み

● **エコシステム形成の鍵となるABC（主体中心のコミュニティ）**
- ➢ 連携を要し、連携することによるそれぞれのメリットを見出す形での主体間の分業・連携
- ➢ 各主体の相互作用を成熟させるための、「地域社会の未来ビジョン」の設定・共有・志向
- ➢ 課題解決を目的とした「対策型」ではなく、ビジョン達成を目指す「創造型」の連携体制
- ➢ 機動性・柔軟性を持ち、固定観念やしがらみに縛られず、意欲ある多様な行為者間の相互作用

自立した**個であるプレーヤー層**としての主体の**意欲ある構成員**が、自身の所属する主体の壁である**境界や組織・体制を超えて、機動的に相互に連携**し合い、個々人の能力も極めつつ、**役割分担・分業することで、最強のチームワークが機能**する創造型の実動コミュニティ
＝ **ABC（ Actors**（実際に活動する主体）**- Based**（を基礎とする）**- Community**（集団）**）**
※　地域にある既存の産学官金連携体制は、**組織のトップにより構成されて意思決定機能を持つ**のに対して、ABCは**プレーヤー層により構成される実動コミュニティ**であり、両者は相互補完することが重要

● **ABCが生み出すメリットの最大化に向けて（プレーヤーが所属する組織の役割と３つの源泉）**

地域資源
国
- シーズプッシュ＆ニーズプルの両側面からの地域STI振興
- 厳格な評価の下、集中と選択

地方公共団体・大学・産業界
- 保有施設・機器の共用促進とその利活用

大学
- 地域資源の発掘や、STIによる地域資源の再生（課題設定力、地域理解力の向上）
- 地域資源の最大活用に向けた学内の分業（教育、研究、社会貢献、事務、経営等）

資金
国
- リスクマネーを地域に促す資金循環に向けた環境整備
- 資本集約型の領域・分野地域への集中投資

地方公共団体及び大学
- 保持する資産活用や、ファンド、寄附、産業界からの投資呼込など、財源の多様化

大学
- 資産マネジメント強化の改革

産業界
- 創業前段階へのﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ｻﾎﾟｰﾄ
- リスクマネーとしてのギャップファンド供給

人材
国
- 学生も巻き込んだ教育、研究、地域貢献を一体化させたSTI振興
- 社会実装活動を評価する仕組み導入

地方公共団体（他主体と連携）
- 地域資源の見える化、インセンティブ付与、魅力ある労働市場の創造による人材の呼び込み

大学
- 「イノベーション力」の向上に繋がる、リカレント教育の幅広い供給
- 「ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ人材」の要職への長期配置

産業界
- リカレント教育プログラムへの貢献

4．本報告書を踏まえた国のアクション（第６期科学技術基本計画に向けて）

● **第6期科学技術基本計画に向けた考え方と当面の具体的アクション**
- ➢ **社会的価値の創造**を地域にもたらし得る、地域の科学技術イノベーション活動の振興
- ➢ エコシステムの定着、地域人材の流動性向上を狙った、**若者も巻き込むABC形成**の誘導
- ➢ 地方公共団体をイノベーション活動に巻き込む、**ニーズプル型の地域STI振興策**の展開

① 地域の意欲ある構成員による**ABCを核**として、**地域資源（強み、課題）を踏まえて未来社会ビジョン**を描き、**イノベーションによりその実現（地域変革）を志向**することで、**社会的価値の創出を目指す**プロジェクトを**モデル事業として普及**（新技術実装を阻む規制の緩和や、自治体単独では限界ある広域連携も先導）
② **先駆的なABCの事例を横展開**し、ABC構築の**具体的なプロセスや方法を提示**
③ モデル事業の効果検証に向けて、ABCが達成を目指す**社会的価値を測るための指標開発に向けた検討**
④ 地方創生の実現に向け、関係府省のそれぞれの政策目的に基づく方策を総動員し、**政府全体として推進**